15th NIPPON JAMBOREE NEWS
SCOUT ASSOCIATION OF JAPAN

JAMBOREE NEWS

June 2009
Issue 1

目ざしたのは世界

昨年７月の世界スカウト会議において、平成27年（2015年）７月に開かれる第23回世界スカウトジャンボリー（23WSJ）が日本で開催されることが決定されました。第15回日本ジャンボリーでは、世界スカウトジャンボリーの要素を取り入れた大会となるよう、大会期間や参加形態、プログラム、運営組織等を設定しました。

昭和46年（1971年）に日本で開催された第13回世界ジャンボリーの会場であった朝霧高原に、再び世界の仲間も加わり、キャンプ生活を通じた相互理解から、世界中の平和と調和を考える機会を多くの青少年に提供します。

来るべき2015年の世界スカウトジャンボリーへ向けて、第15回日本ジャンボリー（15NJ）が動き出します。

テーマ

「世界に向かってでっかく羽ばたけ！」

15NJは、2015年に日本で開催される第23回世界スカウトジャンボリーに向けた第一歩であり、15NJ参加者の力によって、スカウト運動を大きく飛躍・前進する契機とします。

会場となる朝霧高原で壮大な富士山を仰ぎ見るとスカウト運動の創始者ベーデン-パウエル卿が遺した言葉が胸に湧いてきます。

My mountain says "Looking wider; look higher; look farther ahead, and a way will be seen."

（我が山が「もっと広く高く、そして遠くを見よ、そうすれば、道は見えてくるだろう」と、私をさとし示している）

朝霧高原で自然環境と調和を図り、全国の青少年と世界の仲間とともに、広い視野、より高い志をもって、富士山のように「でっかく成長しよう」という願いを込めて、大会テーマとしました。

大会の目的

15NJ に参加した青少年たちが、世界文化遺産登録を目ざす霊峰富士山麓の豊かな自然の中でのキャンプ生活や様々なプログラム活動に挑戦することにより相互理解と協調性を養い、また環境や健康の諸問題を考えることをとおして、持続可能な社会について共に考え行動する機会とします。

シンボルマーク

公募された大会シンボルマークには、北海道のベンチャースカウトのデザインが見事採用となりました。富士山の裾野と斜面のラインを組み合わせて、日本ジャンボリーの頭文字「NJ」に見立てているのがポイントです。国旗に使われている赤で「日本らしさ」をアピールし、緑の緑で朝霧高原の自然を表現しています。

今後、参加章や記念品なども制作されていきますのでどうぞお楽しみに！

あさぎり 2010
15th NIPPON JAMBOREE

大会のコンセプト

❶地球環境との共生を考える

●地球温暖化や大気・水・土壌汚染などの地球環境問題を考える教育プログラムを展開し、その理解促進に取り組むとともに、キャンプ生活を通じて食料や水、燃料等の使用に配慮したエコキャンプを実践する。

●廃棄物の減量や二酸化炭素（CO_2）排出量の削減、地産地消（地元で生産されたものを利用する）等、環境に過大な負荷をかけない大会運営を目ざす。

●環境保全や資源の再生利用について、社会的評価が得られる具体的な活動を盛り込む。

❷強健な身体とそれを支える食の大切さを体感する

●大会期間中の長期のキャンプ生活（８泊９日）を十分楽しめるよう、大会前から体力作りに取り組む。

●普段の「豊かな食生活」の背後で発生している諸問題を考える教育プログラムを展開し、持続可能な社会の理解促進に取り組む。

❸地域社会や関係組織・諸団体と一体となって開催する

●開催地域を中心とした一般青少年教育団体等からの参加を促進するため、参加条件や環境を十分に整え、本運動の一層の理解促進に努める。

●大会期間中だけでなく、大会前後における奉仕プログラムも構築すると共に諸外国連盟や一般社会からの人的支援協力についても積極的に受け入れる。

●大会に参加できないスカウトや一般の青少年にもジャンボリーを楽しめるプログラムを全国各地で展開する（ジョイン・イン・ジャンボリー）。

●自治体やマスコミ、企業に対して本大会開催の意義と目的の理解推進に努め、様々なコラボレーションをすることで、スカウト運動の社会的認知度の向上を目ざす。

❹ゆとりのある大会を目ざす

●スカウティングの基本である自発活動に基づいたキャンプ生活を展開する。

●ジャンボリーライフを十分に楽しめるゆとりある日程を編成し、快適なキャンプ生活を目ざす。

●大会運営組織をスリム化し、効率的かつ効果的な大会運営を行う。

●情報伝達（文書、表示等）の国際化（英語、フランス語等）に努める。

大会の概要

◉会期　平成22年（2010年）8月2日(月)～8日(日)

第15回日本ジャンボリーは、平成22年８月２日(月)の開会式から８月８日(日)の閉会式までの７日間を大会期間とします。参加者は開会式の前日に集合し、閉会式の翌日に解散するので、８泊９日間をキャンプ生活で過ごします。従来の５日間の大会期間から２日増え、プログラムの日数が倍の４日になります。

〈日程表〉　　全体行事

日　数	日　程	主な行事	午　前	午　後	夜　間
	7月30日(金)	大会本部要員到着	大会本部要員到着・設営		事前訓練
	7月31日(土)	準備作業	準備作業		
前　日	8月1日(日)	派遣隊到着・設営	派遣隊到着・設営		
第1日	8月2日(月)	開　会　式		開　会　式	
第2日	8月3日(火)	プログラム	プログラム	プログラム	
第3日	8月4日(水)	プログラム	プログラム	プログラム	
第4日	8月5日(木)	スカウト平和の日		ジャンボリー大集会	
第5日	8月6日(金)	プログラム	プログラム	プログラム	
第6日	8月7日(土)	プログラム	プログラム	プログラム	
第7日	8月8日(日)	環境整備・閉会式		環境整備	閉　会　式
翌　日	8月9日(月)	参加者退場	派遣隊退場	派遣隊・大会本部要員退場	

◉会場　静岡県富士宮市朝霧高原

朝霧高原（静岡県富士宮市根原地先）は、主要幹線国道139号線の山梨県との県境より南へ約５km、富士宮市街地より北へ約23kmに位置します。昭和46年（1971年）に開催された第13回世界ジャンボリーの会場で使われた朝霧アリーナを中心に、周辺の牧草地、朝霧オートキャンプ場、朝霧野外活動センターなどが15NJの会場となります。

朝霧高原は、日本有数の酪農地帯で、丘陵地が広がり、富士山を背景とした草原地帯には富士山の火山灰土（黒ぼく）、富士砂などが堆積しており、会場内は牧草のほか、ススキ、杉、檜、柏が分布しています。会場の海抜は平均して800～860mあり、朝夕の寒暖の差が大きい高原地特有の気候で、駿河湾から湿った空気が上昇し霧や雨になることが多くあります。

◉参加者

大会の参加者は、中学生・高校生年代の加盟員（ボーイスカウト・ベンチャースカウト）を中心に、活動を支援する成人指導者とともに派遣隊を編成して参加します。外国連盟、ガールスカウトをはじめとする関係諸団体からの参加を歓迎します。15NJでは、ジャンボリーの楽しさをより多くの青少年に体験してもらうため「オープン参加者」を募り、内外の参加者同士の交流が期待されます。また、心身や発達に障がいのある青少年を積極的に参加できるよう奨励します。

大会を運営する成人の大会本部要員も参加者の一員で、運営業務を通じて大会のコンセプトを理解・実現していきます。派遣隊の指導者含む全ての成人が、新たな知識や技能を取得し、より一層社会に貢献できることが期待されます。大会本部要員は、加盟員はもとより外国連盟、ガールスカウト、関係諸団体、一般成人等からの奉仕を歓迎します。

◉派遣団の編成

大会の参加にあたっては、ボーイスカウトの都道府県連盟、外国連盟、関係諸団体単位で派遣団を編成します。各派遣団は日本連盟と調整しながら、参加申し込みなどの諸手続きを行い、参加のための準備を進めます。また、期間中は、各地域のスカウト活動や関係諸団体の活動を紹介するなど大会のプログラムにも協力します。

◉参加人員

15NJの参加者は２万人を予定し、次の区分と人数で参加申し込みを行います。

参加の区分	内　訳		人　数
派　遣　隊	(1) 加盟員40人×380こ隊	15,200人	17,600人
	(2) 海外、ガールスカウト、関係諸団体等	1,400人	
	(3) オープン参加者	1,000人	
派遣団要員			400人
大会本部要員			2,000人
		合　計	20,000人

参加者の生活

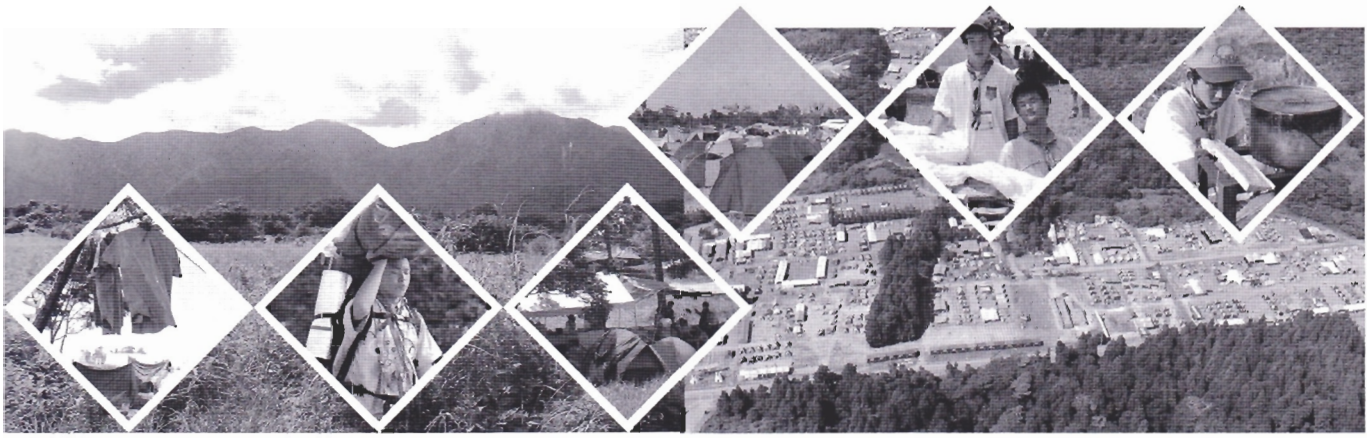
会場の朝霧高原は、海抜が800m以上あり、８月でも気温が30度を超えることのない冷涼な気候です。自然環境に富んだ富士山の裾野に抱かれたキャンプ生活は、ボーイスカウト本来のキャンプ技能を発揮することが必要となるだけでなく、夕方以降の冷え込みや急な天候の変化など、自然の厳しさを教えてくれる場所です。

日中に暖められた駿河湾の湿気が富士山の裾野に沿って上昇し、夕方から雨や霧になりやすく、同じ富士宮市の中心地よりも平均気温が約５度も低いところです。高原の名のとおり「朝霧」が多く、霧が発生すると数m先も見えなくなります。

派遣隊は、2,000人規模のサブキャンプに分かれ、異なる都道府県の派遣隊や海外のスカウトたちと交流したり、食材の配給や清掃作業などを協働しながら日々の生活をおくります。大会で提供する日中のプログラムはもちろんのこと、日々のサブキャンプライフを十二分に楽しむためには、規則正しい生活習慣とサブキャンプの一員として協力し合える仲間づくりが重要です。

派遣隊の入場する８月１日(日)の夕食から、退場する８月９日(月)の朝食までの23食分の食材が配給されます。これまで参加者が持参していた主食のお米も、15NJでは一緒に配給することとし、環境に配慮して生活排水を減らすために無洗米を使用します。また、炊事の燃料には薪を使用し、食材と同じ期間分が配給されます。

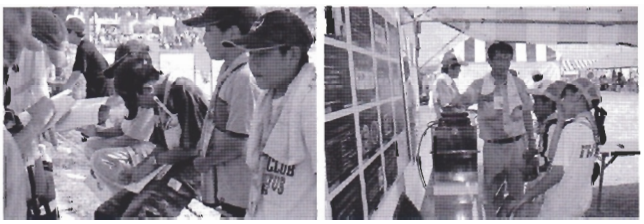
ジャンボリーでは、日々のキャンプ生活もスカウトの大事なプログラムの一環であるとともに、スカウトキャンプの基本を再確認する意味からも炊事用燃料に「薪」の活用を取り上げました。また、環境に配慮した大会として、再生可能な資源である間伐材、除伐材を使用した薪を静岡県内で準備しています。



ジャンボリー活動・プログラム

ジャンボリー活動は、大会期間を中心にその前後のすべての活動を含む、一連のまとまりのあるプログラムです。つまり、参加の意思表示（申し込み）、派遣隊の編成、準備訓練、大会期間中のキャンプ生活、大会プログラムへの参加、参加者同士の交流、帰宅後の評価と報告から派遣隊の解隊までのすべてが含まれているのです。

大会で提供するプログラムは、参加者の個人的な成長を助け大会の目的を達成するために構築されますが、各派遣隊の指導者によりスカウトの学習・体験を支援したり、ジャンボリー活動を通じて個人の成長・発達を促したりすることが欠かせません。



◉テーマ別プログラム

すべての参加者が参加する中心的なプログラムで、半日または１日の単位で場内と場外で展開されます。参加者は、プログラムの実施される４日間に６～７つの各プログラムへサブキャンプ単位で参加します。第21回世界スカウトジャンボリーを参考にして、次のとおりテーマを検討しています。

◆テーマ候補◆

環境（自然と科学の融合）、健康と安全、スカウト技能、地球開発村（Global Development Village；GDV）、地域活動、冒険とチャレンジ、自然探検など

◉ジャンボリー広場

参加者が余暇の時間を利用して自由に訪れることができ、見学者にも開放されるプログラムです。各国・各県連盟によるスカウト活動の紹介、切手やワッペン等のスカウトコレクションの展示、様々な信仰や信条に触れ合う機会を提供できるよう計画しています。

変わること

◉大会期間：8月2日～8日　7日間⇒2日延長

スカウト教育をより効果的に展開できる「長期キャンプ」を踏まえ、また世界スカウトジャンボリーの11日間に近づけるよう15NJは従来の5日間から2日増やして7日間で開催します。参加者は開会式の前日に集合し、閉会式の翌日に解散するので、8泊9日間をキャンプ生活で過ごします。2日増えることで、プログラムが丸2日増えることとなり、参加者全員が場外プログラムに参加できるようになります。

◉参加者年齢：小学6年生～高校3年生⇒ベンチャースカウトも派遣隊に

世界スカウトジャンボリーの参加対象年齢は14歳から17歳ですが、15NJでは日本的に学年で区切ることとします。日本の部門編成に合わせ、派遣隊にBS班とVS班を設け、ともに参加します。BS班はボーイスカウトの自治の中でリーダーシップを身に付け、VS班は隊全体に奉仕しながら自らも大会を楽しみ、BSたちの見本となります。

◉事前の訓練・体力作り

参加者の年齢が広がり、小学校6年生から高校3年生までの体力や技能の異なるスカウト同士が1週間以上のキャンプ生活を過ごすことになります。

ボーイスカウトであれば2級以上、ベンチャースカウトであればベンチャー章以上が参加資格になりますが、入場から退場までの全日程（8泊9日間）のキャンプ生活に十分に耐えうる健康とキャンプ技能が無ければなりません。

小学6年生を始めとするキャンプ経験の少ないスカウトは、大会参加時までに、少なくとも3泊以上のキャンプ1回を含め、通算5泊以上のキャンプ経験が必要になります。キャンプ経験の多いスカウトでも、5泊以上の長期キャンプを経験していることが望まれます。

◉ベンチャースカウトの参加

15NJでは、2015年に我が国において開催される第23回世界スカウトジャンボリーを視野に入れて、これまで奉仕隊や上級班長、隊付として参加していたベンチャースカウトを派遣隊のスカウトとして参加することとします。

派遣隊のベンチャースカウトは、次のねらいに基づき、隊指導者の指導のもと、派遣隊の運営に協力しながら、ボーイスカウトのプログラム参加および生活面での支援を行うとともに、ベンチャースカウト自身もプログラム活動に参加します。

- ●ベンチャースカウトが隊運営を体験することで、隊活動の楽しさを体感させる。
- ●ベンチャースカウトが、後輩のボーイスカウトに範を示すことが、彼らの上進意欲に繋がることを感じさせる。
- ●内外の多くのスカウト仲間と会うことで、スカウト運動の広がりを体感させる。

〈派遣隊　1こ隊　40人編成〉

隊　　長		1人
副長および副長補		3人
	（ただし少なくとも1人は副長とする）	
上級班長（ベンチャースカウト）		（1人）
	（上級班長の人数はＶＳ班に含める）	
ＶＳ班	4～8人×1こ班	4～8人
ＢＳ班	7～8人×4こ班	28～32人
		計40人

※指導者・スカウトの参加資格は、基本実施要領を参照してください。

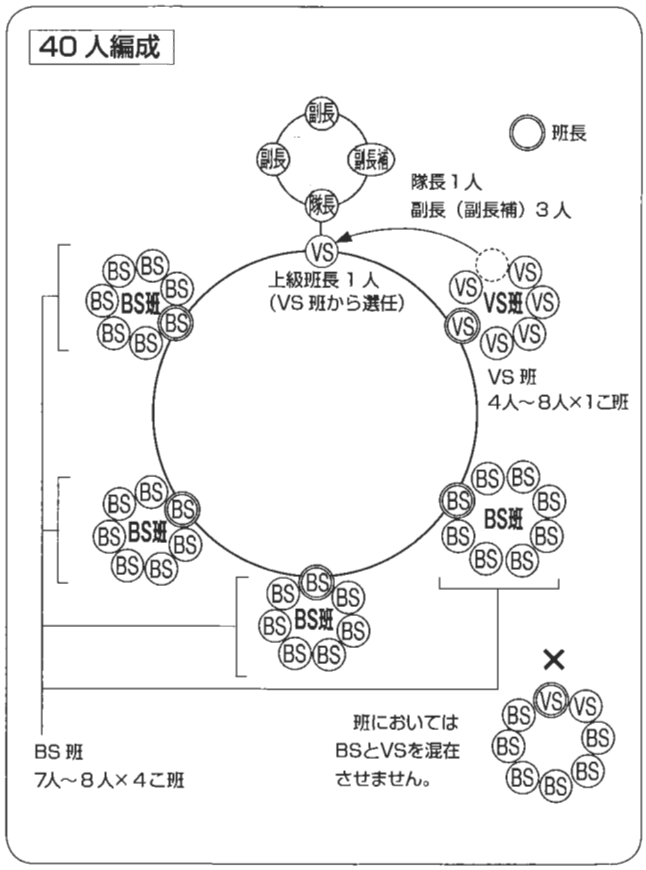
◉大会組織：効率的な大会組織へ ……

大会本部要員だけでなく、参加者もサブキャンプ運営の一端を担う効率的な大会組織を作ります。従来のNJの経験を生かしつつ、サブキャンプの組織も大会本部の一つとして運営します。

２万人の大会運営には、その参加人数の１割に相当する約2,000人が必要と試算しています。つまり、生活やプログラムなど派遣隊へのサービスを提供するためには１こ隊あたり５人の大会本部要員が必要であり、これは各県連盟・団からの派遣協力が無ければ実現できないことです。

大会本部の各部を担うのはローバースカウト・成人指導者による大会本部要員です。これまでの２倍となるプログラムを展開するため、また23WSJへ向けたプレ大会となる16NJへの経験を積むためにも、これまで以上に多数の奉仕者の参加が求められます。

15NJ における隊・班の編成



申し込み手続き

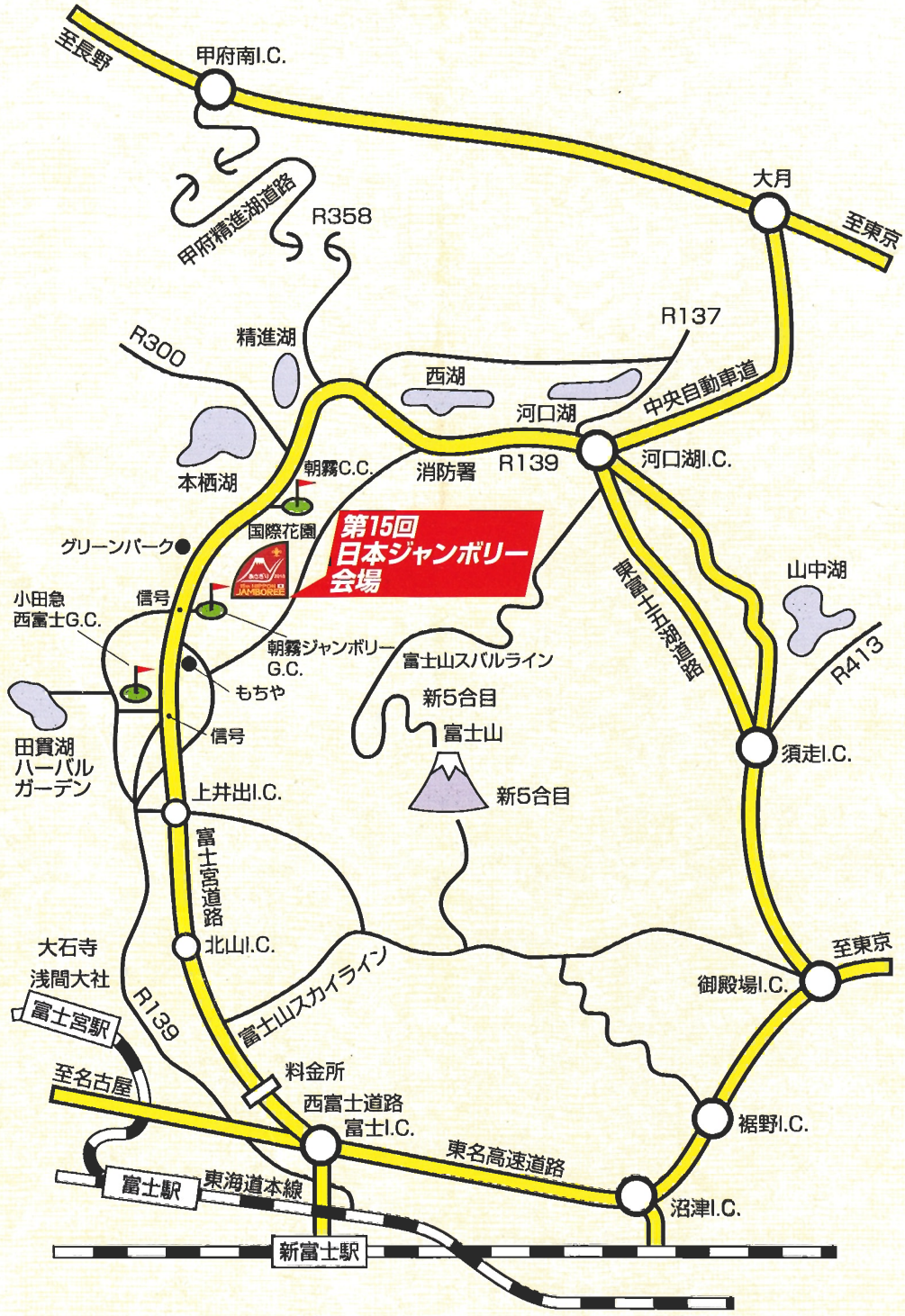
加盟員は、平成21年11月末までの予定申し込みと、平成22年４月末までの確定申し込みの２回の申し込みを行います。

それぞれの申し込みの手続き、費用等については、所属の県連盟を通じてお知らせします。

〈準備日程〉

時期		日本連盟の準備・連絡	県連盟・地区・団の準備
平成21年（2009年）	6月	基本実施要領の配付・参加者割当を通知	
			県連盟内・地区内の割当を調整
			団内・保護者等に案内
	9月	参加予定申し込み・第１次輸送調査を実施	
		県連盟締め切り（10月末日）	派遣団の輸送計画を検討・調整
		日本連盟締め切り（11月末日）	スカウト・指導者の参加希望を調整
平成22年（2010年）	1月	参加確定申し込み・第２次輸送調査を実施	
			派遣隊の編成
		県連盟締め切り（3月末日）	
	4月	日本連盟締め切り（4月末日）	派遣隊の事前準備訓練
	7月	資料等の事前送付	
	8月	大会開催	大会参加

会場アクセス図



●鉄道利用の場合

◆JR東海道新幹線・新富士駅または東海道線・富士駅より自家用車で約50分
◆JR身延線・富士宮駅より自家用車で約30分
◆富士急行河口湖線・河口湖駅より自家用車で約40分

●飛行機利用の場合

◆新千歳空港→富士山静岡空港　約1時間50分　1日2往復
◆福 岡 空 港→富士山静岡空港　約1時間25分　1日3往復
◆那 覇 空 港→富士山静岡空港　約2時間　1日1往復
◆富士山静岡空港より朝霧高原まで自家用車で1時間40分

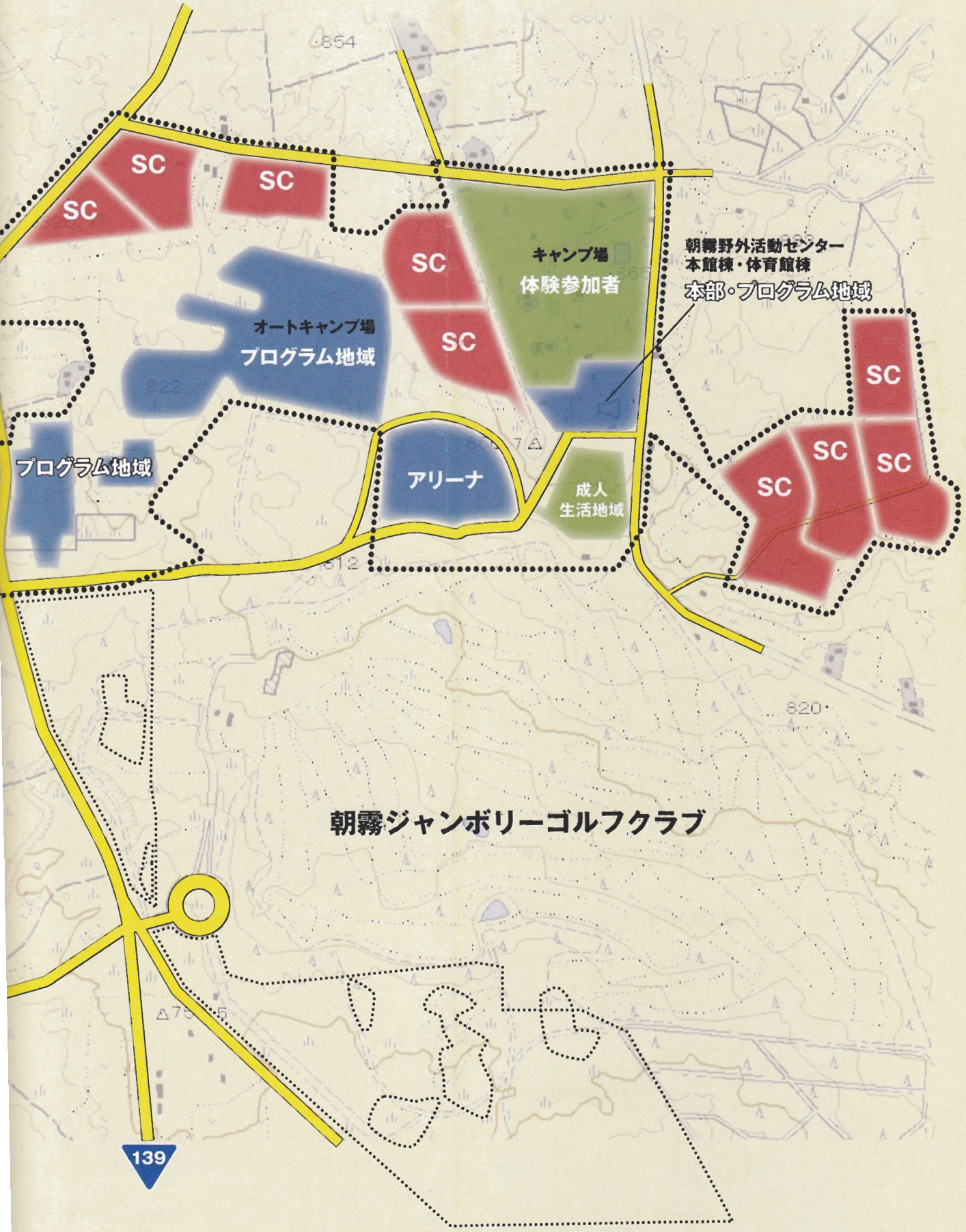
●快速バス利用の場合（富士急バス）

◆新富士駅～富士宮駅～河口湖駅～富士急ハイランド間で運行、朝霧高原停留所下車
◆新富士駅発　平日1～4便、土日祝日2～6便運行
◆富士急ハイランド発　平日1～5便、土日祝日5～7便運行

●自家用車利用の場合

◆中央自動車道・河口湖I.C.より国道139号線で約40分
◆東名高速道路・富士I.C.より西富士道路・国道139号線で約30分

会場MAP


SC
SC
SC
SC
SC
キャンプ場
体験参加者
朝霧野外活動センター
本館棟・体育館棟
本部・プログラム地域
オートキャンプ場
プログラム地域
プログラム地域
アリーナ
成人
生活地域
SC
SC
SC
SC
朝霧ジャンボリーゴルフクラブ
139